

国指定重要文化財

～他にはない、うつくしさ～

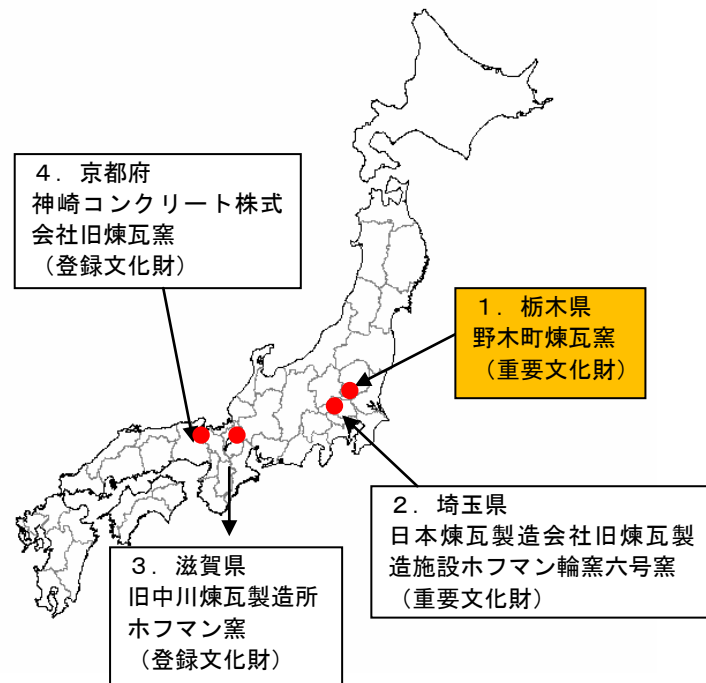
野木町煉瓦窯



指定名称	旧下野煉化製造会社煉瓦窯
完成年月	明治23年6月
指定年月日	昭和54年2月3日（文部省告示 第8号）国指定重要文化財となる
構造形式	煉瓦及び木造、建築面積840.0㎡、16角造、鉄板葺、中央煙突付、階段2箇所 付属、直径（地盤面外周部）33.00m、煙突高（地盤面より煙突頂上まで）34. 67m

日本に残存するホフマン窯

ホフマン窯はドイツ人のフリードリヒ＝ホフマンが1858年に開発した赤煉瓦焼成用の窯で、16区画の窯を順次循環・移動しながら窯詰・予熱・焼成・冷却・窯出の工程を繰り返すものです。ホフマン窯は銀座煉瓦街建設に際し、我が国に導入されてから各地に築造され、昭和26年には全国で50基存在していたと言われていましたが、現在残るホフマン窯はわずか4基のみです。



野木町煉瓦窯の価値は？

1. 現存する煉瓦窯として最古の遺構

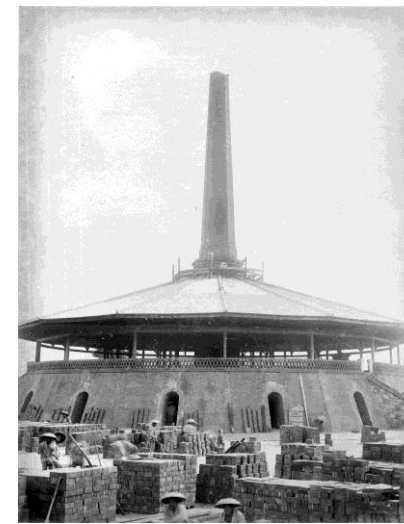
ホフマン窯は最初、円形でした。しかし、上記4基のうち、野木町煉瓦窯を除く3基は、長方形あるいは楕円形をしています。これは、ホフマン窯の発展形で、1つの窯の生産性を上げるためと、円形では外側に積まれた煉瓦と内側に積まれた煉瓦に焼きムラができるため、それをなくすために、直線部分を長くしたためだと言われています。過去に日本で確認されたものは野木町煉瓦窯の他には小菅集治監（現 東京拘置所）の窯のみですが、その窯も現存していません。要するに、野木町煉瓦窯は、日本で唯一、世界でも数少ないホフマン窯のプロトタイプであると言えます。

2. ほぼ当時の原型をとどめており、形が非常に美しい。

形が16角形で、非常に美しく、屋根・煙突が完全に残っているものは日本では他にはありません。

3. 煉瓦を製造した近代化遺産として極めて価値が高い。

日本の近代化に貢献した産業・交通・土木の遺産を総称し、「近代化遺産」といいます。全国各地に近代化遺産は現存しており、国指定重要文化財に指定されていますが、多くはその指定が平成に入ってからなのに対し、野木町煉瓦窯は昭和54年の指定と近代化遺産としては飛び抜けて古い指定となっています。



小菅集治監ホフマン窯外観

明治18年建築の円形のホフマン窯。野木町煉瓦窯とよく似ていることがわかる。(すでに撤去され、現存していない)

国立科学博物館 提供



大正時代の古写真

中央に位置するのが、現在の野木町煉瓦窯。当時は東窯といわれていた。東窯の左奥の煙突が、西窯であり、関東大震災で崩壊した。また、同敷地に登窯や素地製造場あったこともわかる。

新井家ふるさと記念館 提供



窯2階

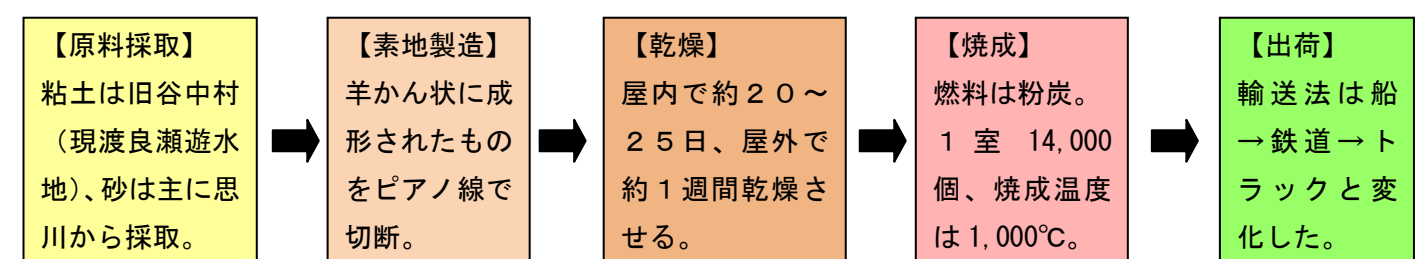
トロッコで燃料の粉炭を運び、投炭孔に粉炭を投入し、1階の窯で煉瓦を焼成した。



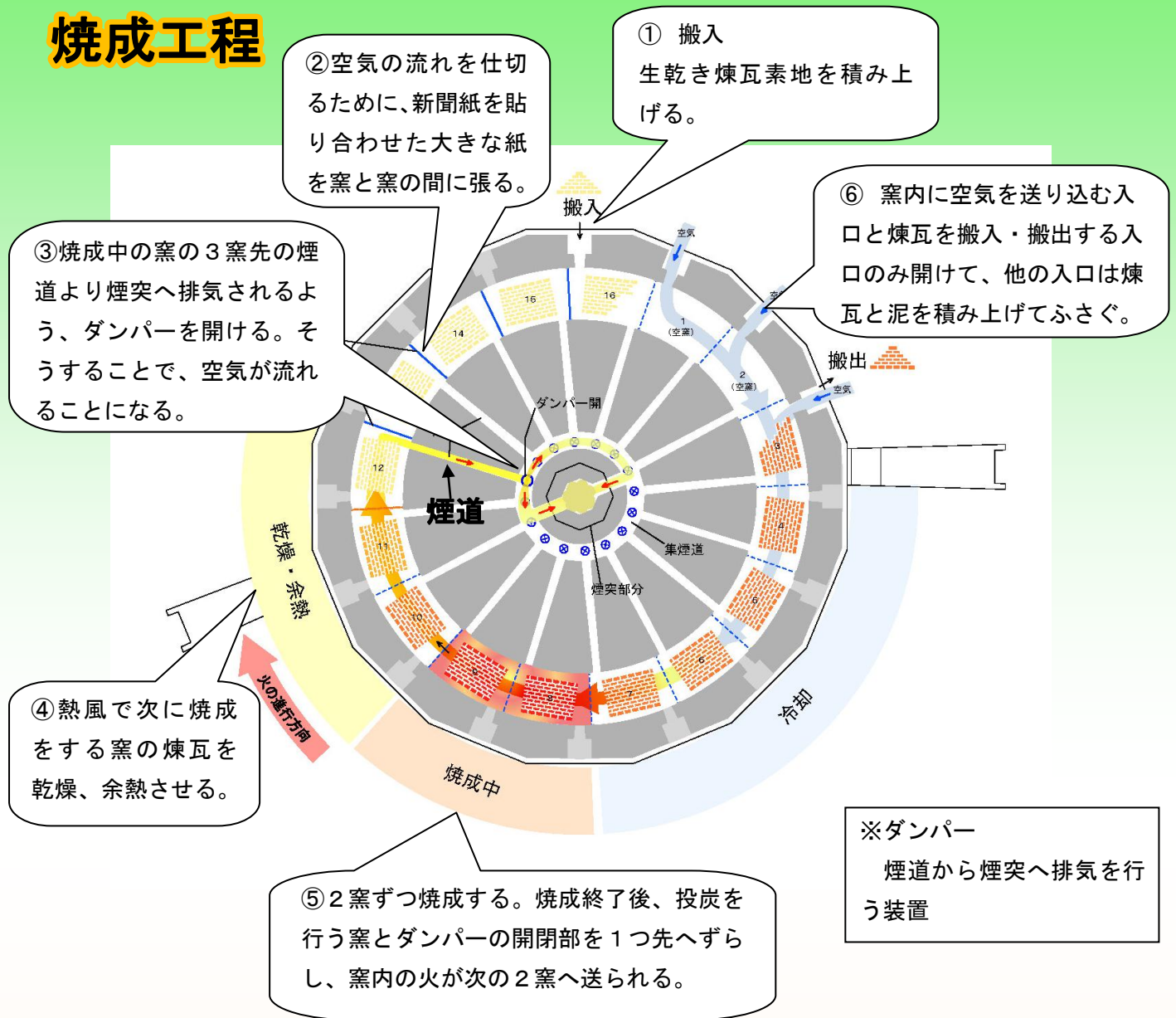
窯1階

天井にある穴が投炭孔。煙道より煙突を通じ、排気を行った。

赤煉瓦製造工程



焼成工程



野木町煉瓦窯に関する問い合わせ先

栃木県下都賀郡野木町教育委員会生涯学習課

電話 0280-57-4188 FAX 0280-57-4192

メールアドレス syougaigakusyuu@town.nogi.lg.jp